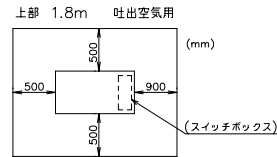
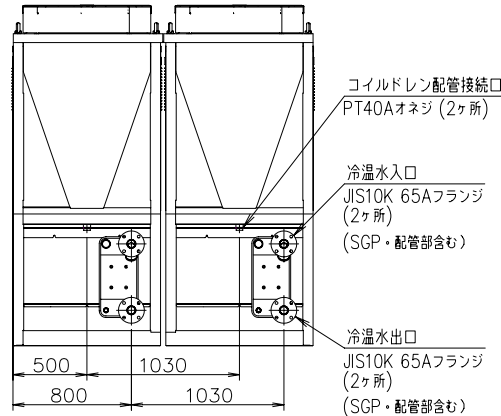
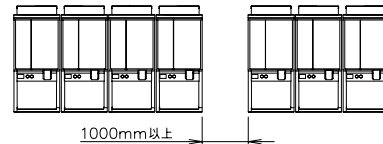


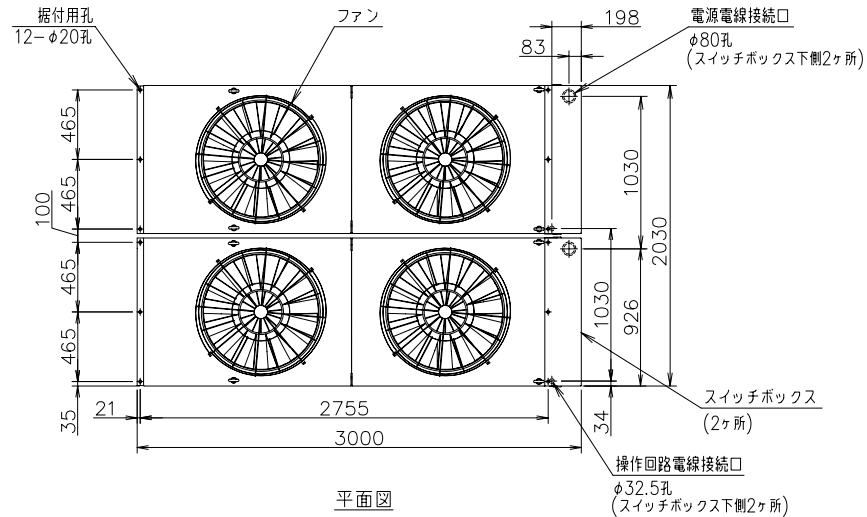
注1、ユニットの周囲には、最小下記のサービススペースを確保してください。



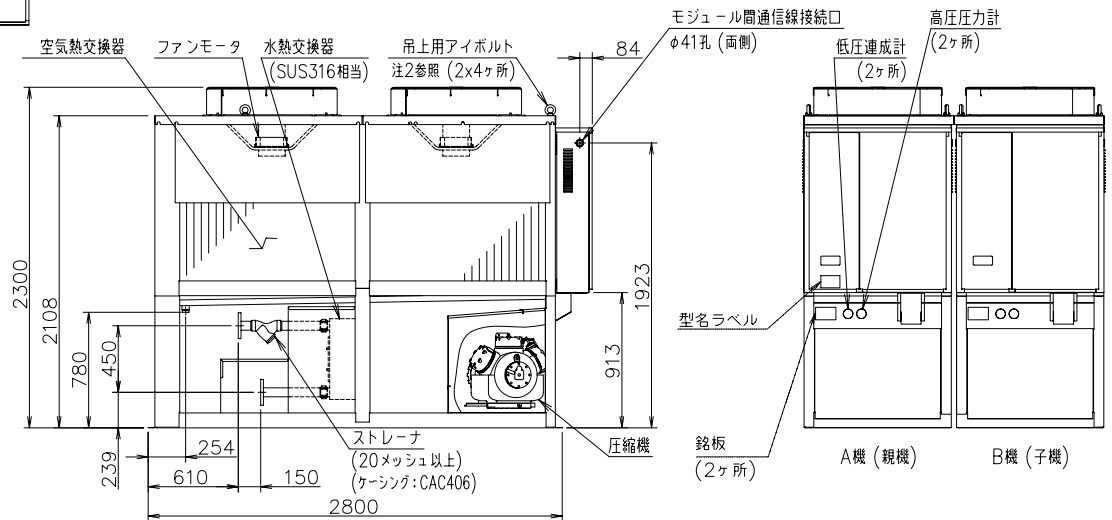
- 2、据付後、吊上用アイボルトを取り外し、スイッチボックス内に付属されているボルトキャップを取付けてください。(錆防止の為)
- 3、付属の連結金具にてモジュール同士を連結固定してください。
- 4、据付けの現場では、各モジュールへの動力線および信号線の接続が必要です。
- 5、コイル面および下部機械室の防護網は別売部品となります。(参考資料番号：T30MEA402-1)
- 6、冬期に冷却運転を行う場合で、ユニットが冬季季節風に直接さらされる場合は、空気側コイル面に、ウィンドバッフル(強風遮へい板)を別途取付ける必要があります。
- 7、積雪がある地域では、防雪フードを取付ける必要があります。
防雪フードを取付けない場合は、故障停止する可能性があります。
- 8、水熱交換器および水配管の凍結事故を防ぐ為、電源を落として長期間停止される場合は、必ず水配管を不凍液で満たされるか、または、水抜きを行ってください。
- 9、循環ポンプはユニット毎に水熱交換器の入口側に取付けてください。
また、ポンプ停止時に水熱交換器内の水が排出されないよう、必要により、逆止弁等を設置してください。
- 10、水熱交換器への異物の流入を防ぐ為に水熱交換器の入口側配管接続部には、付属のストレーナを必ず取付けてください。また、ストレーナはモジュール毎に内蔵されております。
- 11、複数台のモジュールが設置される場合、台数に応じて、A、B、C、Dのラベルが貼り付けられています。
据付時には、スイッチボックス側から見て、左からA機(親機)、B機(子機)、C機(子機)、D機(子機)の順に並ぶように各モジュールを設置してください。
- 12、水配管接続は、ユニット背面、側面、底面へ取り出すことができます。(現地手配)
ユニット背面、底面へ取り出す場合は、ユニット内での配管スペース(エルボ位置、断熱材の厚さ等)を考慮して水配管設計を行ってください。また、プレート熱交換器への空気溜り防止の為、入口配管に空気抜き弁を設けてください。(現地手配)
- 13、水配管接続は、リバーシターンとしてください。
- 15、雨水および結露水はユニット下面へ排出されます。
基礎面には防水処理を施し、排水された水が基礎面上に溜まらないようユニット周辺に排水溝、排水口等を設けてください。
- 16、複数台のモジュールをベタ基礎にて連結設置する場合は、最大4台までとしてください。5台以上をベタ基礎にて設置する場合は、モジュール間距離を1000mm以上確保してください。
尚、ゲタ基礎にて設置する場合は、別途お問い合わせください。



左側面図



平面図



右側面図

適用機種		作成	照査	承認	JOB番号	品名	空冷ヒートポンプチリングユニット外形図	尺	1
RUA-P18004MH-A/B	RUA-P23604MH-A/B				納入先				
RUA-P18004MHV-A/B	RUA-P23604MHV-A/B				客先			左記	
RUA-P20804MH-A/B		日付			東芝キャリア株式会社		図面番号	頁	改版
RUA-P20804MHV-A/B							T30MQA102-2	1 / 1	F